

# 呼吸器科

## 診療科紹介

常勤医 2 名で家族的な雰囲気の中、呼吸器科の診療を行っています。気管支鏡は年間 100-150 例、診断の内視鏡だけでなく喘息の治療のための気管支サーモプラスティなども導入しています。当院は、呼吸器学会 認定施設、呼吸器内視鏡学会 認定施設であり当院での勤務期間は専門医取得のための年数に全て換算されます。呼吸器診療に興味のある方は是非ご相談ください。

## 資格取得への道筋

- ① 内科専門医取得
- ② 呼吸器学会専門医取得（旧制度：2 階建て、内科専門医取得後）  
（新制度：2 階建て、島根大学 呼吸器内科学のプログラムに参加連携施設 B）
- ③ 呼吸器内視鏡専門（学会入会后 5 年間認定施設で勤務、講習会参加、学会発表義務あり）
- ④ 学位取得 島根大学医学部 大学院博士課程に社会人入学（必要単位と論文作成）

他 抗酸菌専門医、感染症専門医なども当院勤務で受験資格を満たせます。

基本的に当科所属医師が取得している資格は全て取得する術を提供できます。（下表参照）

島根大学と人事交流がありトレーニングの途中で学位が取得したくなったら大学院へ行く等の選択肢も可能です（上記④）。

## 普段診療する疾患

**感染症：**肺炎、結核、非結核性抗酸菌症、肺アスペルギルス症などの診療を行っています。近年、結核の減少と反比例して非結核性抗酸菌症が増加の一途をたどり、診断・治療・難治例への対応を学ぶことが出来ます。

**悪性疾患：**肺癌・胸膜悪性中皮腫に対して正しい診断と確立された標準療法を提供しております。当院では通常の殺細胞性抗がん剤に加え、EGFR-TKI や ALK-TKI の使用、免疫チェックポイント療法に加え、これらとの併用療法も可能であり、肺がん治療に対する内科治療の全てのオプションを学べます。LC-CSRUM-Japan 参加施設です。

**気管支喘息・COPD：**難治例やコントロール不良例が主に当院に紹介されます。難治例に対しては抗 IgE 抗体や抗 IL-5 抗体に加え抗 IL-4、5、13 抗体療法も使用可能です。薬物療法に反応しない難治例にもサーモプラスティで内視鏡治療を行うこともでき、手技取得に興味のある方にはトレーニングを提供できます。またモストグラフやヴィンセント等の新規検査装置を用い他の検査で検出の難しい気道障害の検出も試みています。

**びまん性肺疾患：**近年疾患の分類と治療法がかわり一般医の先生で何時まで観察すべきか？また診断は？悩まれることが多い疾患群です。特発性間質性肺炎（UIP、NSIP、DIP、RB/ILD、COP、LIP、AIP）だけでなく二次性間質性肺炎（膠原病性、薬剤性、職業性、アレルギー性他）や他の各種びまん性肺疾患（サルコイドーシス、肺胞タンパク症、過敏性肺疾患、好酸球肺炎）の症例も多く経験できます。

**気道疾患：**気管支拡張症、びまん性汎細気管支炎（DPB）などは積極的にマクロライド少量持続療法を導入するとともに併存症の加療を行っています。

**希少疾患：**LAM（リンパ脈管筋腫症）、LCH（ランゲルハンス組織球症）、BO（閉塞性細気管支炎）などはかつて肺移植施設で勤務した経験から、適応例は滞滞なく肺移植施設へ紹介させて頂いています。またこれらの疾患の移植前、移植後の管理を学ぶことができます。

**睡眠時無呼吸症候群：**1 泊入院、PSG での結果をふまえ外来で CPAP 導入を行っています。OSAHS、CSAHS いずれも対応いたします。原発性肺泡低換気症候群などの方にも対応しています。

当院の研修は、希少疾患を経験したい方にお勧めです。志のある方の応募をお待ちしています。

